平成２７年度 やまなし読書活動促進事業

図書館司書が選ぶ

こんな時、この一冊

わたしと 本と あなたと

本を贈る心

山梨県立図書館　館長　阿刀田 高

読書離れが叫ばれているけれど、そうであればこそ、あえて本を贈ろう。「なにを贈ればいいの？」と悩むだろうが、とにかく相手のことを考えて適せると信ずる本を選ぼう。贈られる側は、贈った人が“私のことを考えてくれたんだ”と相手の配慮に思いを馳せよう。

本そのものの価値はさることながら、ここには“思い、思われる”という大切な人間関係が伏在している。とにかく贈ってみよう。贈られた人は、その心に感謝しよう。

クスッと笑いたい時に

『アブナイおふろやさん』
山本 孝／作　ほるぷ出版

子どもはいつでもどこでも遊びの天才！
普通の銭湯がねったいのおうこくに、お風呂がもうどくせいぶつのいる沼に。おふろやさんでまぼろしのぎょじんを探す？そんな妄想全開の男の子たちの話。子どもの頭の中では、いろんな世界が広がり何でも遊びにしちゃう。我が家にもこんな妄想全開の息子がひとり…。高校生になった息子の小さな頃を思い出し、思わずニヤニヤしてしまう。（忍野村立おしの図書館）

子どものアトピーでお悩みの方に

『じょうぶな子どもをつくる基本食』
幕内 秀夫／著　主婦の友社

子どものアトピーで悩まれている方にお薦めします。
戦後の食生活の変化でアトピー性皮膚炎、喘息、体力不足の子どもが増加。子どもの食事は「ご飯＋みそ汁＋漬け物＋お茶」。こんな簡単な食事で娘のアトピーも良くなりました。
改めて伝統食をとることが大切と気付かせてくれる一冊です。（都留市立図書館）

本当に恋しているのか自分自身を疑っている時に

『夜は短し歩けよ乙女』
森見 登美彦／著　角川書店

サークルの後輩「黒髪の乙女」の姿を追い求めて、京都街を東奔西走する青年「私」が、画策し頻発する「偶然の出逢い」はことごとく読者の失笑の対象となっていく。それでも「私」は突き進み続ける。この恋心は、果たして本物なのか。それとも恋することに「恋」しているだけなのか。主人公と一緒に疑いながら読んでほしい。（中央市立田富図書館）

新しい命の誕生を待つ日々に

『あなたをまつあいだに』
エミリー・ヴァスト／作　ほるぷ出版

いのちの誕生を心待ちにしているお母さんとその家族に贈りたい１冊。移りゆく季節とその中で育まれるいのちがシンプルなイラストと言葉でやさしく、いきいきと描かれています。読み終わった後に広がるあたたかく包み込まれているような気持ち。母となり、いのちを育んでいくことへの希望と喜びを伝えている本です。（身延町立図書館）

手紙を出そうと思った時に

『漂流郵便局』
久保田 沙耶／著　小学館

ここ数年、手紙を出していない。元々筆不精な上、用事はメールで済ませてしまうからだ。しかしこの本を読んで、手紙を無性に書きたくなった。「漂流郵便局」は、届けたくても届けられない誰かへの想いを預かってくれる。そこに届いた手紙からは、それぞれの想いが伝わってきて、手紙の持つ力を改めて感じる事ができる。（笛吹市御坂図書館）

ほっとしたい時に

『月の砂漠をさばさばと』
北村 薫／著　新潮社

９歳のさきちゃんとお母さんの日常のはなし。久しぶりに心があたたまる本に出会いました。お母さんがゆとりをもってさきちゃんに接している姿がとても素敵で羨ましくなる１冊。
かつて（昭和の頃）の生活にタイムスリップした気分になる。ゆったりした時間を持ちたい時、心に栄養が欲しいときにおすすめしたい本です。（富士河口湖町生涯学習館）

雨の名前が気になった時に

『雨の名前』
高橋 順子／文　佐藤 秀明／写真　小学館

雨を表すのにこんなにもたくさんの言葉が使われているのは、きっと日本だけである。四季折々の雨の名前の数だけ、季節を感じることもできる。いつもは鬱陶しく思っていた雨の見方も、この本を読めば変わってくる。雨音に耳を傾けながら、本を片手に名前を調べてみるのもおもしろいのではないだろうか。（南アルプス市立櫛形図書館）

青春を懐かしむ時に

『葡萄が目にしみる』
林 真理子／著　角川書店

最初にこの本を読んだのは、青春真っ只中の高校生の時。隣の席の子が貸してくれた。その時の感想は『痛い』。自意識過剰の主人公は自分の鏡のようであった。その後何度か読み返しているが、大人になってから読むと、高校時代の上手く生きられなかった自分を許してあげられるようになり、青春を懐かしむようになる。（山梨県立図書館）

踏み出す勇気がなくなった時に

『１７歳に贈る人生哲学』
葉 祥明／著　ＰＨＰ研究所

人は成長するに従い、様々な悩みに直面します。友人、勉強、将来について。言葉で表現できない現実にひどく落ち込んだり、今の自分をどのようにコントロールして将来に向かっていったら良いのか悩みます。『１７歳に贈る人生哲学』は、葉祥明氏が特に十代の若者に向けて「人生とはなんのためにあるのか」詩的内容で優しく語り導きます。落ち込んだ心に一条の光を降りそそぐ内容は短時間で何度も読み返すことができます。（南部町立図書館）

がんばれるかなって思うときに

『手のひらから広がる未来』
荒 美有紀／著　朝日新聞出版

著者の荒さんは、１６歳の時難病・神経線維腫症２型が原因で、視覚と聴覚の両方に障がいが起きてしまいます。景色と音のない世界で生きる現実を受け入れ、コミュニケーションのために、指文字や音声点字を覚えます。彼女の努力そして、周囲の人々に支えられ６年かけて大学を卒業します。生きる力に勇気と感動をもらえます。（甲斐市立敷島図書館）

夜寝入る前に

『ひとりの夜を短歌とあそぼう』
穂村弘・東直子・沢田康彦／著　角川学芸出版

夜、寝入る前の時間は貴重なプライベートタイム。布団の中で今日の出来事を思い出し眠れなくなった時は、その気持ちを言葉にすると意外と落ち着いたりする。せっかく言葉にするのなら、言葉の匠たちの作品をお手本に、一句詠んでみるのもオツなもの。匠のするどいツッコミに思わず苦笑いしつつ、気づけばスッキリしています。（甲州市立塩山図書館）

ちょっと行き詰った時に

『ヌーヴォー切り絵』
蒼山 日菜／著　河出書房新社

自分を貫くこと、何事も楽しむこと、そして自分という存在が唯一無二のものであると気づくこと。言葉にすると、ありふれていて単純なことのように聞こえるが、これがなかなか難しい。しかし繊細な作品たちをただ隅々まで眺めていると、それだけで作者のポジティブな精神が自分に染み込んでいくような気がするのだ。（山梨県立図書館）

地球や宇宙についてなぜ？が浮かんだ時に

『地球と宇宙のおはなし』
チョン・チャンフン／文　山福 朱実／絵
講談社

青空を見上げると、太陽が燦々ときらめき、夜空を見上げると、月が出て星が輝いている。そして空の彼方には宇宙が広がっている。「地球って何だろう？宇宙って何だろう？」足を止めて空を見上げる時、当たり前のことが、１つ１つ「なぜ？」に変わり、たくさんの不思議が溢れ浮かんでくる。そんな時に手に取ってみて下さい。（甲府市立図書館）

ゆったりとした時間を過ごしたい時に

『目であるく、かたちをきく、さわってみる。』
マーシャ・ブラウン／文と写真　港の人

日々当たり前に見ている風景でも、ふと立ち止まって見ると、何もかも目新しく感じた子ども時代の感覚を思い出す時があります。
絵本作家である著者が撮影した何気ない写真や綴られる言葉の中にも、日常とは違う世界が垣間見えてきます。
ゆっくりと時間をかけて読みたい一冊。（北杜市立図書館）

青春を感じたい時に

『僕とあいつのトライアル』
川上 途行／著　ポプラ社

子どもみたいにバカな大人のまさ兄、クールで大人びた小学生タカシ。そんな正反対の二人がビッグなお笑い芸人を目指してコンビを組んだ。笑いあり、涙ありで、二人以外の登場人物もみんな魅力的。児童書ではあるが、青春物語独特の爽やかな読後感を感じられます。二人の漫才も面白く、お笑い好きにもおすすめです。（大月市立図書館）

悩んでいる時に

『銀二貫』
高田 郁／著　幻冬舎

武家出身でありながら仇討ちにより父を亡くした松吉は、寒天問屋の主人に救われ奉公することに。己の生き方に迷いながらも商人として成長していく。人は生きる中で数多の困難を経験する。しかし、だからこそ気づくことのできる人の温かさ、進むべき道、そして生きる意味がある。そんな大切なことを改めて感じる一冊である。（山梨県立図書館）

こんな時、この一冊

図書館司書が選ぶ こんな時、この一冊

ホッと一息つきたい時に

『おおきな木』
シェル・シルヴァスタイン／作
篠崎書林，あすなろ書房

なんだか疲れてしまった…。そんな時は、絵本を読んでみませんか？
いつでも変わらない場所にあるおおきな木と、成長し変わっていく少年。間にあるのは、変わらぬ想い。この本には、村上春樹訳のものと、ほんだきんいちろう訳のものがあります。ぜひ図書館で読み比べてみてください。あなたのお気に入りの訳はどちらですか？（富士吉田市立図書館）

日常から抜け出したくなった時に

『鹿の王』上・下
上橋 菜穂子／著　ＫＡＤＯＫＡＷＡ

毎日が単調で、繰り返しのように思え、新しい世界を見てみたいと感じたら、まずは１ページこの本をめくってみてください。
医学、生物学、文化人類学…。様々な学問領域に触れながら、人間という存在、生命について考えるきっかけを与えてくれます。きっと毎日をもっと大切にできるようになります。（上野原市立図書館）

世界一周旅行をしたい時に

『ＷＯＲＬＤ　ＪＯＵＲＮＥＹ』
高橋 歩／編著　Ａ－Ｗｏｒｋｓ

「世界旅行に行きたい！」と思ってもなかなか実行できないものです。
この本では、実際に世界一周旅行を経験した人たちのリアルな体験談が載っています。読んで、イメージトレーニングが出来そうです。（昭和町立図書館）

見えないものへの畏れを感じた時に

『遠野物語』（『遠野物語・山の人生』所収）
柳田 国男／著　岩波書店

森をわたり、土のにおいを含んだ風が、開いたページからそよぎ出てくる気がする。収められているのは、ほんのちょっと昔の話。今でも私たちの心の奥にひっそりと息づいていて、だからなつかしさを呼び起こすのだろう。原文で読めば、さらに妖しく、恐ろしく、不可思議。そして人というものの可笑しさを静かに伝えてくれる。（山梨県立図書館）

現場リーダーとしての決意を持ちたい時に

『ウルトラ警備隊キリヤマ隊長に学ぶ
リーダーシップ』
大崎 悌造／著　ビー・エヌ・エヌ

ウルトラセブンに登場する防衛チーム「ウルトラ警備隊」。そのリーダーであるキリヤマ隊長の手腕をドラマの表現の中から読み解きます。キリヤマ隊長の思考や哲学、意思や決断、指令・命令、そしてフォロー。現代の悩めるリーダーに送る一冊。命令違反の常習者や宇宙人など一筋縄ではいかないチームリーダーのロールモデル。（山中湖情報創造館）

失敗して落ち込んでいる時に

『バンヴァードの阿房宮』
ポール・コリンズ／著　白水社

壮大な夢と才能をもちながら、世界を変えることなく忘れられた偉人たちのノンフィクションです。世界最長のパノラマ画家や地球空洞説の提唱者など型破りな人物たちの運命を手に汗握りながら見守ります。成功に対する強迫観念や、勝ち組・負け組といったレッテルが横行する時代に、一服の解毒剤となるかもしれません。（山梨市立図書館）

気持ちが落ち込んでいる時に

『カラフル』
森 絵都／著　文藝春秋

一度死んだはずのぼくが、小林真（まこと）の体にホームステイし、１年だけ人生をやり直すチャンスを得る。
人それぞれいろいろな色を秘めている…それがタイトルに込められている。読後、気持ちが前向きになれる１冊。（市川三郷町立図書館三珠分館）

図書館司書が選ぶ こんな時、この一冊
（平成 27 年度やまなし読書活動促進事業）

平成２７年１０月
山梨県立図書館／編集・発行

〒400-0024
山梨県甲府市北口２丁目８－１
TEL 055-255-1040
FAX 055-255-1042
http://www.lib.pref.yamanashi.jp/